かぜ ひかる　２０１１年５月号
全国福祉保育労働組合東海地方本部
〒456－0006
名古屋市熱田区沢下町９－７
労働会館東館４０５
TEL 052-881-2971
FAX 052-881-2998
e-mail fukuhotk@onyx.dti.ne.jp
http://www.fukuho-tokai.jp/
発行責任者／三冨　和歌子

４月14日に開催された、３回目となる「地域分会」に、三重県のぐみの木分会から清水さんと南浜さんのお二人に来てもらい、「組合について考えている事」をお話してもらいました。

改めて組合の意義や仲間づくり、運動で勝ち取る権利などを捉えなおす機会となり、お二人の話に参加者はしきりに相槌を打っている姿が見られました。

『なぜ組合活動をするのか？』
三重ぐみの木分会から学ぶ

今、三重県にはぐみの木分会一つしかない。以前は三重にも他の福保労の分会があったが「何かあったときにすぐ対応できる」という理由で、地元の自治労連に結集することになった。その時にぐみの木分会も一緒になって福保労から抜けようか、という意見もあった。しかし、「労働組合ってなんだろう？」「産別の労働組合から離れてしまっていいのか？」と考え直した。まだ組合の事がよく分からない時は「組合費が高いな。なんで払ってるんだろう」と感じることもあった。でも東海地本の仲間が「毎月の会議にも行くよ」と会議や交渉に駆けつけてきてくれたり、全国の行動や学習会にも参加していく中で「こうやって自分たちで積極的に活用すればいいんだ。どんどん活用しよう！」と前向きに思えるようになった。

組合活動を進めていく中で「今月はしんどいから、やめようか」となることもあった。でも「このままじゃ何も変わらない」と考え直し、「二人でも集まったら会議をしよう」と決め、年間計画を立てた。それと会議に来てホッとできるように美味しい物も準備して会議を設定してきた。

以前は組合の会議などに参加できない人に対してわだかまりがあったが、本音を出し合って何でも話をする中で互いに信頼することができた。「今は（組合活動できなくて）ごめん」と言い合える関係になった。「会議に出たいけど出れない」そういう気持ちを受け止め、会議に出られる条件を保障しようと夜の職員会の前に分会の会議を設定するなど工夫をしてきた。

「大変だ、しんどい」そう思うのに、なぜ組合活動をするのか？そこをハッキリさせるために分会総会で「自分たちの勝ち取ってきたもの」を書き出してみた。一時金や研修費のアップ、バザーの代休、休憩時間など、自分たちが勝ち取ってきたことがハッキリして、元気が出た。

今回初めて団体交渉をして、自分たちの思いを伝えることができた。そして今年度から30分の時短を勝ち取れた。時短を勝ち取るためには保護者にも協力してもらうことが必要で、そこは園長先生が父母会に説明をして、理解してもらえた。

自分たちでかえる

ぐみの木で働く前は「与えられた仕事をこなす」働き方だった。それが今は自分たちで考えて、作っていく。それが何よりすごいと思った。組合活動は「よりよくするため」に話し合う。そういう場があることが嬉しい。団体交渉など、自分たちで働きかけることで変わる。しんどい時は話しだすとグチばかりになった。でもそのグチを全部出すことで「そこから変えたい！」という気持ちがわいてきた。組合はそういうコミュニケーションがとれる場だった。

【風の音】

３月11日に起きた東日本大震災では、福島県福島市にある私の実家でも震度６弱を記録しました。連日テレビから流れてくる聞き慣れた地名や聞き慣れた方言を聞くことが本当に辛く、自分は実家に戻ることすらできず普通に日常生活を送ることに罪悪感すら感じる毎日でした。

そして起こった原発事故。いえ、「事故」と言うにはあまりにもはばかられます。津波で大事な人、物、すべてを流されてしまった方たちには本当に胸が痛みますが、自然の脅威で破壊されてしまったものは10年、20年かかっても必ず復興していくことでしょう。一方で人間が起こしてしまったとも言える原発事故は、私のふるさとを汚染し続けています。

「智恵子抄」にもうたわれた安達太良山の麓で、春には山で採れた山菜、秋にはきのこが実家から毎年送られてきます。おいしい水からできるおいしい野菜やお米。くだものも、夏暑く冬寒い気候で、もも、なし、りんご、ぶどう、どれもこれもとってもおいしい。本当に豊かなところです。

そんな私のふるさとの土、水、空気はどうなってしまうのか。農作物は汚染物質のように扱われ、外国からは「フクシマ」と呼ばれ、今の自分を育ててくれたところがもう人間が暮らしていくことができないところになってしまうのではないか、毎日テレビを見ながらそんなことを考えています。それでも日本ではいまだ、活断層の真上にある浜岡原発をはじめ、50基あまりの原発が稼働し続けているのです。

みかんいろ

今、国会では震災のかげに隠れていますが、「地域主権改革一括法案」が名前を替えただけで、採択されてしまったように、さまざまな制度改正が行われようとしています。
「社会保障と税の一体改革」「介護保険法改正案」「障害者基本法改正案」「子ども子育て新システム関連法案」などなど「改革」が目白押しです。これらの「改革」の何が問題なのか？どういった事態になるのかをもう一度みてみましょう。

「障害者基本法改正案」

そもそもは国連の作った「障害者権利条約」という国際的なルールがあり、そのルールを日本も守るためには、今までの法律を整備する必要があります。そこで、日本の障害者福祉に関わる大本の法律の「障害者基本法」を改正することになりました。その案がこの「障害者基本法改正案」です。

この改正案の最大の問題点は、「障害者自立支援法訴訟」の和解と反省を踏まえ、障がい当事者の声を反映させるために開いてきた、障がい者制度改革推進会議での話し合いを無視した内容になっている事です。

具体的なところでいうと、条文の中に「可能な限り」や「努めなくてはならない」という言葉が出てきます。つまり障がい者の人権を尊重するとしながらも、それは国の努力義務でしかなく、守れなくても「仕方が無い」と解釈できるのです。

そしてこの「障害者基本法改正案」が可決成立してしまうと、障害関連の法律が右に倣えで、「できなくても仕方が無い」と障がい者の権利が守られなくなってしまう危険があるのです。

「介護保険法改正案」

介護保険制度では3年ごとに報酬単価（施設に支払われる運営費で「生活介護をするといくら」と行う事業の中身によって金額が決まる）などの見直しをすることになっています。その見直しに合わせて、膨らみ続ける国の負担を減らす目的で行われるのがこの改革です。

介護保険はその名の通り、保険金を支払う国民と国とが施設の運営費（労働者の給与など）を負担しています。保険金を支払う人と使う人のバランスが崩れて、使う人が多くなれば、その分国の負担が増えることになります。そこで、国は保険を使わせない方法を考えました。

①あまり介護を必要としない人（軽度者）に対して、自治体の判断で家事援助などを保険項目から外し、新設する「総合事業」にしてもいいとする。地域間格差が広がると、低い方に足並みが揃って、国の費用負担が減る。

②自己負担額を引き上げて、利用を控えさせる。

さらには、そもそもの介護保険料の値上げも計画しています。

また介護の時間単位をより短くして切り売りするなど、介護の現場で働く労働者の環境も破壊しようとしています。

「税と社会保障の一体改革」

現在の菅内閣の目玉政策として検討が進んでいる改革です。

「一部の人に負担がいくのではなく、全ての人で支え合おう」「社会保障を充実させるために、安定した財源を確保しよう」というのがうたい文句ですが、その中身は、社会保障を自己責任にすり替え、国の負担を減らしていくことが目的です。

「全ての人が平等に負担する財源」として検討されているのが「消費税の増税」です。消費税を「福祉目的税」という形にして、福祉以外には使わないようにする、としています。一見「自分たちの払った税金で福祉が充実するなら」と納得してしまいそうです。しかし、裏を返せば「今以上の福祉を望むなら、消費税がもっと上がる」と負担を国民にのみ押し付け、企業・国は負担をしなくなります。

そもそも消費税は収入の少ない人ほど負担が増す不公平税制です。また、消費税が導入される時の政府の説明は「消費税は福祉増進の為の財源に充てる」と話していましたが、消費税で増えた税収と、ほぼ同じ額が大企業への法人税減税で消えてしまいました。同様にこの改革の裏側で「国際競争力を高めるため」という理由でさらなる法人税減税も検討されています。日本経団連など大企業がこの税制改革に賛成するのは、さらに自分たちが儲けるためです。

そしてこの「税と社会保障の一体改革」の中で「今後の社会保障のモデルになる」と言われ、積極的に進められようとしているのが「子ども・子育て新システム」なのです。

ワンポイントキーワード

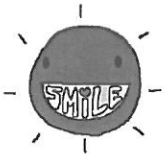
Q．「閣議決定」と「法案可決」何が違うの？

A．「閣議決定」とは、内閣や各省庁が「こういう法律作ろうか」と考えたものを「国会でＯＫをもらう」ために、内閣として「国会にこの法案を提出する」と決めることです。「法案可決」は国会（衆議院・参議院の委員会など）で話し合って「この法律作っていいよ」と法案が成立することです。

東日本大震災で被災された方々にお見舞い申し上げます
被災地の一刻も早い復興を、心よりお祈りします

福保労では、今回の震災に際し、被災された方々に宛てた義援金を募集しています。 支援物資の募集は一旦中止していますが、ボランティアは随時募集しています。できるところから少しずつ、ご協力をお願いします。

福祉は国の責任で！
被災地にエールを送ろう！



西部医療センターの保育所は社会福祉法人が受託

～この間の動き～

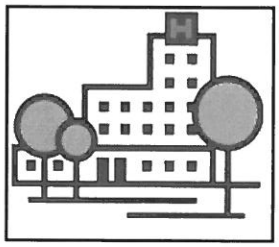
2009年4月、東市民病院内保育所が企業委託されました。”企業に保育所は渡さない“と運動をし、福保労として名古屋市病院局とも団体交渉を行ってきましたが、プロポーザル審査で企業が勝ちました。結果、東では4人いた組合員3人が職場を去りました。1人残った職員の賃金・労働条件は悪くなりながらも、運営・保育の全責任を負い奮闘することとなりました。

2010年8月、2011年5月に開院する新病院内の保育所の検討委員会が始まりました。東のときと同じように「企業委託反対・職員の雇用の確保・賃金・労働条件の現行保障」を掲げ病院局との懇談を重ねました。あわせて、城西病院が2011年3月末で廃院・民間移譲となる事が決まり、院内保育所の職員の雇用をどうするのかと局の責任を求めて、城北の問題と合わせて運動を行ってきました。

その中で、城西の分会員は城西の譲渡先の民間病院と面談もし、いろいろ考えた結果、新病院の保育所で働き続けたいと決意しました。

2010年11月に新病院内保育所の仕様書（案）が出されました。その内容は城西3人、城北4人の雇用を保障するものではなかったので、すぐに局に懇談を申し入れ私たちの思いを伝えました。これに対して局は、「5人の雇用しか保障しない。7人なら賃金は7割保障だ」と回答をしました。そこで福保労のみなさんの力も借り、12月13日、12月24日に団体交渉を行いました。その場では「城北・城西の7人の雇用を確保すること」「賃金・労働条件は現行保障すること」「企業は排除すること」を要求し、そして7人の分会員の切実な生活実態を伝えました。結果、仕様書において7人の継続雇用、賃金の8割以上の保障を勝ち取る事ができました。

2011年1月17日に公募が始まり、6団体が応募し、（社会福祉法人2・企業4）一次審査・二次のプロポーザル審査を経て、2月23日、私たちが望んでいた社会福祉法人・名北福祉会が受託先に決定しました。そして、名北福祉会と共に、運営費の見積もりをあげていくことで、事実上、現行賃金の100%保障を勝ち取ることができました。



～つなげていく運動を～

これらの成果を得られたのは「企業委託はしたくない、くさのみの保育の継承を」と一緒に運動してくれた保育所のお母さん方と病院労組の力添え、そして福祉保育労の仲間が共に闘ってくれたからだと思います。

今年度は緑市民病院の指定管理者制度導入に伴い、ぽんぽこ保育所の分会員の雇用確保をどうするのか、まだまだ気の抜けない日々が続きます。また、福祉保育労の仲間と共に、がんばっていきたいです。ご協力お願いします。

（文責　岡村）

【シリーズ・私のおすすめ】

田代分会　園田　茜さん

私がみなさんにおすすめしたいのが“豆乳”です。最近では“豆乳鍋”や“豆乳ラテ”など、名前を見る機会が増えた豆乳ですが、その中でも特におすすめしたいのが、「ソヤファーム」から出されている“おいしさスッキリ豆乳飲料”という商品です。一般的な無調整の豆乳だと飲みにくく感じられる方も多いかとは思いますが、ここの豆乳は豆乳とは思えないくらい、スッキリと飲みやすい味わいになっています。

特に私は“おいしさスッキリきな粉豆乳飲料”が好きです。優しい甘さが口の中に広がり、“豆乳”というよりも、“きな粉牛乳”のような味わいになっていておいしいですよ。きな粉だけではなく、バナナ・ココア・黒ごまetc…味も様々です。

私は休憩時間の楽しみにと、日替わりで違う種類を持っていって飲んでいます。どれもおいしいですし、豆乳なのでカロリーも低くなっています。疲れたときに甘いものが飲みたい…でもカロリーが気になるという私にはもってこいの、素敵な飲み物が「ソヤファーム」の豆乳なのです。

豆乳の原料の大豆について調べてみると、大豆は「畑の肉」と言われるように肉・魚・卵と比較しても遜色のないアミノ酸バランスを持っているうえ、植物性なので動物性脂肪を気にすることのない理想的なたん白質として広く認められているそうです。また、大豆たんぱくにはコレステロール値を下げる働きがあり、大豆たんぱく質の摂取（1日あたり25ｇ）は心臓病のリスク低減に効果的とされているそうです。これからも豆乳を飲み続けながら、健康な体で働き続けていきたいと思います。

～給食室のおいしいレシピ～

<にんじんゼリーの作り方>

材料：（子ども10人分）にんじん一本、さとう30ｇ、アガー15ｇ（アガー：寒天を主原料とした植物性ゼリー）、リンゴジュース350ml、水160ml

①にんじんを乱切りにして、アクを取りながらゆで、やわらかくなったらミキサーでペースト状にする

②水にアガーと砂糖をダマにならないよう、少しずつ入れてとかす

③②を鍋に入れて火にかけながら混ぜ、沸騰後1～2分で①を入れる

④よく混ぜたら火を止め、リンゴジュースを加え、バットに入れて冷やす

グリフェスだよ全員集合

大矢さんは、今年度で保育士2年目のまだ若い組合員です。実行委員長をどうしてやろうと思ったのか、グリフェスへの心持ちとかいろいろ聞いてきました。

『仲間』ってすごくいいな

山川（以下「山」）ーこんにちは。お仕事お疲れ様です。今日（3月28日）もグリフェスの会議なんですよね?お疲れ様です。

大矢（以下「大」）ーお疲れ様です。いえいえ、大丈夫です。

山ー私もインタビューが初めてなので、ぐだぐだになっちゃうかもですが、グリフェスに向けての事など、色々聞いていこうと思うのでよろしくお願いします。

大ーお願いします。

山ーでは早速…。大矢さんは今年まだ保育士1年目（3月時点）と聞いたのですが、どうして今回はグリフェスの実行委員長をやろうと思ったんですか?大変なお仕事ですよね?

大ーえーっと…去年初めて、グリフェスに職場の先輩に誘っていただいて参加したんですけど、その時、初めは「グリフェスって何?」「組合って何?」と正直よく分からなかったんです。けど、グリフェスの「新入組合員さんようこそ!」という楽しい雰囲気とか、他の職場の方たちともつながれて、色々な話ができて「仲間」ってすごくいいな、と思って…。それで今年は組合、分会の中でたくさん話もしてきて、元気にもなったし、励みにもなり、もっとみんなでつながりたいなと思ったので。とにかく楽しい事、盛り上げる事が好きなんです!

山ーそうなんですね。組合って言っても、初めは難しいですもんね…。でも、つながりって素敵ですよね。じゃあ実際、会議も始まって、グリフェスもどんどん近付いてきていますが、進めてきてみてどうですか?

大ーグリフェスって何の為だろう…って思った時に、まずは新入組合員さんを迎えることや、組合っていいよねって思える事、また未組織に方にも伝えていく事が大事だと思うんですけど、実際ノルマみたいに「じゃあ何人集めるのが目標」って決めちゃうのって正直きついと思うんです。でも、楽しい事をしたら、きっと少しでも多くの人が興味を持ってくれると思うんです。やっぱり楽しい会を開いて、新しい人もみーんな楽しめるようにしたいと思います。それで正職さんだけじゃなくて、臨職さんやパートさんにも声を掛けて、ゲームもあるんですが、和んで、会話をして、他の職場の人とつながれるきっかけになったらいいなと思っています。

グリフェスにかける思いを、楽しそうに生き生きと話す大矢さん

山ー楽しくつながっていく事、大切ですね。進めていく上でもやっぱり他の職場の方とも交流しながら進めていってるんですか?

大ーそうですね。実行委員さんも「初めてです」って方もいらっしゃれば、何回もやってらっしゃるベテランさんまでいるので、「昔はこうだったよー」とか流れとかも聞けたり、たくさん意見出し合いながらやっています。

目指せ800人地本

山ーでは、最後にグリフェスに向けての意気込みなど聞かせて下さい。

大ーやっぱりたくさんの人に来ていただいて、グリフェスを盛り上げる中で、実行員さんたちとも協力して、組合って素敵だな、楽しいなと思えるようにし、目指せ800人地本の追い込みもしていきたいですね。仲間同士でつながれると楽しいと感じてもらい、美味しいものも食べられるので日頃の疲れを癒してもらいたいです。テーマが「グリフェスだよ、全員集合!」と、ドリフっぽくしてあるので、「ドリフのテーマソングとか流そうか」とも考えてます（笑）。楽しいゲームもたくさん準備してあるので楽しみにしてて下さい。

山ーうわー!楽しみですね。今日もこれから会議頑張って下さい。ありがとうございました。

大ーはい、頑張ります。ありがとうございました。

今年の組合学校は
開校講演・雨宮処凛!
閉校講演・中田進!
必見!

7月16日～17日
東横イン中部国際空港本館

【編集後記】

新年度が始まって1ヶ月過ぎました。新しい子どもたちと出会い、毎日楽しく過ごしています☆始めての幼児で異年齢クラス。今までの乳児クラスの生活と全く変わって、毎日バタバタと忙しくしています。まだ、ペースになれなくて帰るとヘトヘトなっています。でも子どもたちのパワーに圧倒されながらも、子どもたちと一緒にやりたいことがどんどん出てくるし、こんなことしたらどうなるんだろう～と目の前の子どもたちを見るとワクワクしています♪

そして、忙しさを理由に何もしないのは、私にとっても子どもたちにとっても成長しないな～と。こんな忙しいときだからこそ、旅行や映画などたくさん行って、文化的なことをたくさん取り入れていきたいと思っています☆☆

しかし、東北地方では地震でまだまだ普段の生活に戻れない人がたくさんいます。2ヶ月たったいまも、地震が起こることが日々あります。自分たちに何ができるのだろう、現地の子どもたちは大丈夫なのだろうか…と考えると胸が苦しくなります。それとともに、ここに地震が起きたらどうなるのか、子どもたちの安全はしっかり守れるのだろうかという不安も出てきました。できる、できないではなく、やらないといけないのです!!子どもが安心して暮らせるように、また、子どもの命を守る大切な仕事だというのを感じて、1年間頑張っていきたいと思います。

（コロすけ）